



錦町議会だより

秋の収穫祭



2021.NO
138



めぎほ
抜穂祭 (献穀事業)

五穀豊穰を祈り、収穫を感謝する神事

令和3年 第3回 定例会

5年ぶりに 決算審査特別委員会を設置 追加予算 約1億3千万円を可決

令和3年第3回定例会は、9月7日から16日までの10日間の日程で行われ、令和2年度各会計決算認定6件、令和3年度各会計補正予算5件、条例改正等6件（うち追加議案1件）、報告2件が上程され、慎重審議の結果、いずれも原案のとおり可決した。

なお、令和2年度決算認定については、議長と議選監査委員を除く10名で構成する決算審査特別委員会（岡田武志委員長、右田宣之副委員長）を設置し、5日間にわたる審査の結果、各会計とも原案のとおり認定された。このほか最終日の16日、議員発議で意見書の提出1件が上程され、原案のとおり可決された。

15日に行われた一般質問には、5人が登壇し、執行部の考えを質した。

条例改正等

① 錦町特定個人情報保護条例及び錦町個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の一部を改正する条例

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正に伴い改正するもの

② 錦町情報通信施設整備基金条例

将来における情報通信施設の大規模更新に備え、財源を確保するため新たに制定するもの

その他

① 普通財産の無償貸付について

土地 30,264㎡

契約の期間

令和3年10月1日～令和6年9月

30日

貸付の相手方

球磨郡錦町大字西字花立62番地

ゼンカイミート株式会社

代表取締役 坂上昌弘

② 普通財産の無償貸付について

土地 37,594㎡

契約の期間

令和3年11月1日～令和6年10月

31日

貸付の相手方

大阪府淀川区西中島六丁目

1番1号

合同会社 熊本錦グリーンパワー

代表社員 テス・エンジニアリング株式会社

職務執行者 津田孝政

③ 水無川橋上部工及び橋脚解体撤去

工事請負契約について

契約金額 5,401万円

契約の相手方

人吉市西間上町2479番地1

丸昭建設株式会社



令和2年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率について

意見書

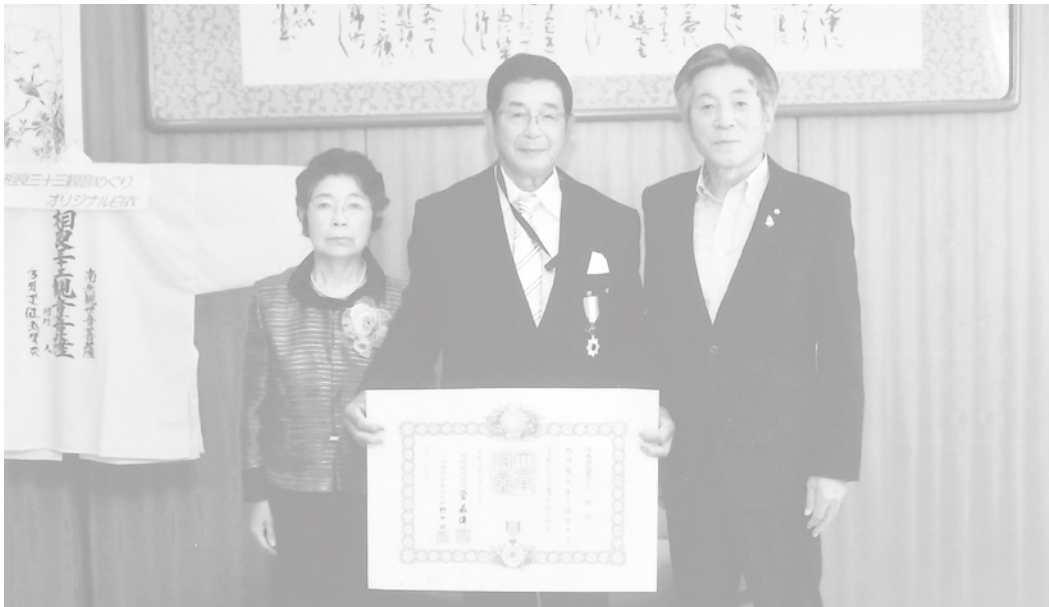
①コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書

新型コロナウイルス感染拡大により、国民生活への不安をはじめ地方財政においても巨額の財源不足が避けられない状況にある中、より一層の地方税財源の充実が必要であり、令和4年度地方財政対策及び地方税制改正に向け要望するもの

令和3年第2回定例会

通年議会の試行により休会中の令和3年第2回定例会は、8月2日に再開し、報告1件のほか、令和3年度錦町一般会計補正予算1件、条例改正等3件が上程され、原案のとおり可決した。なお、本定例会は、8月31日をもって閉会した。

土肥さん、おめでとうございます!!



地方自治に対し顕著な功労があつた方に贈られる春の叙勲「旭日双光章」を前錦町議会議員で第25代議会議長を務められた土肥俊一氏が受章されました。コロナ禍で祝賀会等延期されているため、紙面でインタビュー紹介させていただきます。

— 受章おめでとうございます。 —

土肥氏「ありがとうございます。議員として振り返ると、町の財政と町民の皆さんとのバランスを取り、議会活動に一生懸命取り組んできました。又、議長としては議員間の融和を図りコミュニケーションを大事にしました。」

— 今後、錦町議会に期待するものは —

土肥氏「治水対策、少子化対策など町の政策課題は多い。又、人吉球磨で錦町は今や中心的ポジション。その中で議会はチェックも大事だが、町の将来に対する応援も必要。頑張る」ということでした。本当におめでとうございます。

※尚、土肥氏への伝達式は6月1日に錦町役場で行われ、ほおじろ第137号にこの記事を掲載するつもりでしたが、誌面都合上今号に掲載いたします事、お詫び申し上げます。

第3回定例会一般質問事項一覧

議員名	質問事項	質問の要旨
早田議員 (P5)	合計特殊出生率全国第9位について	①出生率向上の要因と感想。 ②今後どのようにアピールしていくのか。 ③子育て情報アプリの導入は。
	就学前教育プログラムとふるさと教育事業について	①教育プログラムに取り組んでいるか。 ②就学前の幼少連携の状況は。 ③小1プロブレムについて(町内小学校で)。 ④実施計画作成予定は。 ⑤ふるさと教育事業を終えて。 ⑥事業継続を強く望むが今後の方針は。
	補助金等交付後の業績調査について	①交付後の事業者の反応。 ②業績調査をしているか。 ③業績良好内容を公開しては。
吉田議員 (P6)	子供たちが元気で明るく過ごせる教育について	①全国でいじめが原因と思われる事案が報道されている。本町での対策は。 ②新型コロナウイルス感染が子供たちに広がっている。学習面の対策は。 ③アレルギー対応給食導入の考えは。
	河川の土砂撤去、水利保全と農地保全について	①町内河川の堆積土砂の撤去状況は。 ②取水口、水路への流入土砂、農地水環境保全組織にて対応、本来の農地水環境保全組織の活動に支障が出ている。(土砂撤去に予算集中)土砂撤去を災害対応でできないか。 ③球磨川支流中流域に遊水地は。
	観光施設、道の駅物産館について	①道の駅トイレ移転後の敷地の配置、物産館への農産物搬入経路は。
石松議員 (P7)	子供たちの通学路の安全確保と安全対策について	①町道松里永野線の通学路の道路改良は。 ②J A西スタンド前の交差点の改良事業の進捗状況と防護対策は。 ③西小学校通学路の危険交差点の対応は。 ④西小学校、錦中学校の通学路の安全対策は。 ⑤通学路の危険箇所をどのように考えられているか。
	男女共同参画の推進と女性の社会的向上の観点からのまちづくり・地域づくりについて	①男女共同参画の現状と課題について。 ②第2次錦町男女共同参画の計画の進捗管理は。 ③錦町の政策決定の場での女性が占める割合の現状と課題は。 ④防災復興の現場での錦町ガイドラインの仕組みづくりは。 ⑤ジェンダー平等について。 ⑥ヤングケアラーの実態と対応は。
荒川議員 (P8)	子ども感染急増の新型コロナ対応について	①現状と現対応。今後の対応は。
	「危険なバス停」対応について	①国土交通省「危険なバス停」定義に当てはまるバス停が町内に点在している。改善を。
	旧一武中跡地産廃について	①野積みとなっている昨年7月豪雨廃棄物、近隣住民は不安を抱えている。今後の処理は。
藤川議員 (P9)	町長の政治姿勢について	①7.4豪雨災害から一年が経過したが「川辺川ダム問題」に対する認識と方向性は。 ②「副町長人事」の判断は。
	非常災害時等の情報伝達手段について	①7.4豪雨や他地区の災害の教訓から「防災行政無線」の導入を検討すべきではないか。



早田 和彦 議員

一般質問

町政のここが聞きたい

5人が登壇
(要約掲載)

全国第9位、合計特殊出生率
出生率向上の要因と感想は

早田 見事、本町が全国第9位、離島以外ではトップの出生率で大変誇らしい事と思うが。

町長 日本の合計特殊出生率が1.34人。人口を維持する為には、2.1人以上が必要とされる。出生率が減少していく中で、本町が前回より1.8上昇

し2.26人で全国第9位となった。これは本町に誇りを持てる数値ではないかと思っている。

錦町は、過疎から脱却し財政的に厳しい折でも、子供達を生み育てやすい環境や、今まで作ってきた環境が要因ではないかと思う。そして、地理的なことに加え、直接的な支援、子供達、或いはご夫婦に対する支援等、いろんな対策を打ってきたこと。間接的には、経済的な支援や農業支援もやっているの、そういう環境が備わってきたのではないかと思う。ただ、全体的には子供の数が減っている。やはり、経済的にも社会的にも働きやすい、子供を産み

やすい環境を国を挙げてする必要がありと思う。

早田 出生率は、将来の町作りに影響を及ぼす。頑張っている自治体に補助金の別額交付等を、県や国と交渉していただきたい。

子育てしやすい選ばれる自治体
子育て情報アプリ導入は

早田 近年、少子化対策が自治体にとって喫緊の課題となる中、子育て支援に力を入れ、その充実ぶりを町の魅力としてアピールする自治体が増えている。不安なく安心して子育てできる自治体を目指す為に、子育てアプリ導入を検討しては。



母子手帳アプリ「母子モ」

住民福祉課 他の市町村では様々な子育てアプリが開発導入されて

いる。母子手帳併用型のアプリ構築となると、保健センターとの連携が必須となるので、先進自治体の取り組みを参考に検討したい。

早田 子育てしやすい選ばれる自治体を目指す為、導入を検討願いたい。

ふるさとを愛し、誇りに思う心を育てる、ふるさと教育事業

早田 地域おこし協力隊発案のふるさと教育事業継続を強く望むが。

教育長 事業の教育的な意義は非常に高いと思う。今回実施した一武小だけでなく、他の学校にも実施し、事業継続していきけるように、担当課と連携していききたいと考えている。

企画観光課 今回は、町内の小中学校からも授業の見学をいただいている。今後は、教育委員会と連携しながら、各校と協議を進め、来年度以降も継続して実施していきたい。

早田 ふるさと教育の継続を、是非お願いしたい。

全員が楽しく給食を 食べられるように



吉田 眞二 議員

マヨネーズをノンエッグマヨネーズに変更、十数種類の食材に対しても同様な変更を実施、可能な限り仲間と同じメニューの給食を提供できるように努めている。

吉田 管内でアレルギー対応給食を導入している市町村は。

教育振興課 人吉球磨管内では本町、水上村、山江村以外の市町村が既に導入されている。

吉田 楽しい学校生活を送れるように対策が必要ではないか。

教育振興課 例えば卵アレルギー対象者の方も同じ物を食べられるように

吉田 給食センター職員、栄養士の方々には感謝したい。錦町としてアレルギー対応給食導入の考えは。

教育振興課 対象者は年々増加している。現状の施設では手狭である。施設の増築等、調理スペースを広げ栄養士も増員が必要。献立によっては、その日の給食を食べることができず、クラスの仲間たちと違うものを食べなければならぬ不憫さ、管内の大半の市町村が導入していること等を勘案し、安全性を最優先とし

た対応食を調理するスペース確保が難しいが、慎重に検討する段階に来ている。

町長 今後、対応も絶対必要と思う。しっかりと検討しながら対応していきたい。

吉田 財政面も十分理解しているが子供たちのことを考えれば早期の改修をお願いしたい。



美味しく調理して頂いた給食

排土処理に条例制定の考えは

吉田 昨年の水害で河川への堆積土砂は甚大で現在も掘削は急ピッチで行われているが、まだまだ期間を要すると思われる。掘削土砂の排土場の件で排土が公共用地等で対応できると安心だが、排土の量から見ると不可能に近い。掘削土砂が現在私有地林等の窪地に排土されている現状も見受けられる。本年熱海市において集中豪雨による土砂崩壊で土石流が発生し犠牲者が出た。今後本町においても同様の事故が発生しないとは言えない。そこで町、業者、近隣住民が納得した上での事業ができるよう排土の処理に条例を制定される考えはないか。

町長 開発をする場合、農地は、農地法、山林関係では森林法、一般的な土地では都市計画法とそれぞれ法律があり規制がある。国・県が条例を作って規制している、今後は連絡を取りながら進めていく。

子供達の通学路の安全確保と対策は

石松 全国的に子供達の登下校中の事故が多い。西小学校・中学校通学路において三点ほど尋ねる。

一点目、黒辺田野橋への歩道橋の設置及び有田牧場から橋までの道路は路肩の高低差が1m程あり、下には側溝がある。落下する危険性があり、安全が危惧されている。道路の改良は。

地域整備課 歩道橋を含め松里永野線の改良計画も、令和四年度から検

討し、今後においては錦南部線まで合流させる整備計画を進める。

石松 二点目、西スタンド前の交差点について。登校時に十人以上の子供たちが信号待ちをしている。防護対策の検討は。

地域整備課 巻き込み対策や侵入防止対策など必要であると考えている。県の改良事業が進まないようであれば、町で設置を検討する。



石松 まゆ子 議員

石松 三点目、馬場自転車前との交差点は、見通しが悪く狭いため、車との接触の可能性がある。また松里線は、朝夕に国道の渋滞を回避する車が多い。時間帯の速度制限や看板設置などのハード対策は。

地域整備課 交差点は改良が必要な

区間と理解している。また、松里線も近年の車社会からすると道幅が狭い。速度規制を行うには、地域住民の協力が不可欠。「スピード落とせ」などの看板設置などをして、ドライバーに周知徹底を図る。

教育長 子供達の交通安全意識を高め、安全対策を充実させる。



信号待ちをしている子どもたち

られる。特に女性のきめ細やかな視点を生かした防災計画の策定は不可欠。錦町の政策決定の場での、女性の占める割合と目標は。

総務課 教育委員以外は低い。全体的に女性登用を10%まで進めていく。また、自主防災組織においても、女性目線で広く活動していただけるよう錦町のマニュアルの中に盛り込んで進めていく。

石松 全国的には、男女の差別を解消して安全・安心して暮らせる社会の中で、学校における生理用品の常備の問題など、女性の体調変化の理解につながる取り組みが進められている。錦町の教育現場での取り組みは。

教育長 教科や人権教育を通して、男女の違いや社会的平等について学び、性による社会的・文化的優劣を感じることはないよう工夫し、子供達の発達段階を踏まえながら、性教育や人権教育を通して、正しい理解ができるよう努める。

男女共同参画の推進は

石松 錦町第二次男女共同参画計画の中で女性の活躍の推進を挙げてお

子どもたちを守れるか



荒川 孝一 議員

いねっと放送で通知した。また、2学期の始業初日から各学校における欠席者の確認を個人ごとの理由を付記して報告してもらっている。

荒川 10代のワクチン接種、現在の今後の計画は。

荒川 本町において、子ども感染急増の新型コロナについて教育現場はどのように対策し、対処しているのか。

教育振興課 8月26日に2学期を始業し、その前日に保護者に対して、今後の感染対策のさらなる徹底と、登校に不安がある場合、本人またはその家族に風邪症状が見られる場合、または家族が何らかの理由で接触者等になられた場合は、出席停止の扱いになる旨の連絡を一斉メールとあ

込む生徒がいる。事前のアンケート調査では6割から7割の方が接種を希望していると把握している。



ワクチン接種会場

気になる学校行事

荒川 昨年中止になった修学旅行。私見だが、コロナワクチン接種を受け、PCR検査を受け万全にして、県外移動禁止ならば、せめて県内でもと思う。修学旅行という学習面も考慮しなければならぬが、もう一面、友達と遠出し思い出を残してあげたい。その考えは。

教育長 感染の状況にももちろんよるところだが、状況によっては県内の修学旅行、私も全くそのように思う。

荒川 昨年、全国で虐待件数が初めて20万件を超え増加率は5.8%と新型コロナウイルス禍で外出自粛が続き、家庭で自宅に一緒に過ごす時間が増え、コロナ禍で周囲の目が届かない、虐待の潜在化が起きているという指摘がされている。学校現場あるいは町として相談窓口を設けては。

教育振興課 学校には心の相談室、又、担任の先生、養護の先生と連絡を取れる体制を構築しなければと考えている。

健康増進課 現在、町が開設しているコロナ専用の相談の窓口の電話、その専用回線を活かしながら、関係各機関と連携をとって、しっかりと対応していきたい。

健康増進課 一部分、どうしても集団接種の一定の都合上、10月にずれ

荒川 確認だが、ほとんどの生徒が接種するのか。

高校生の接種は、夏休み中に1回目、9月上旬までには2回の接種が済ませることができている状況。



藤川 喜一 議員

川辺川問題 生命も清流も守れない?!

藤川 昨年の7・4豪雨災害を受けて「川辺川ダム問題」が今後の球磨川流域治水に重大な影響を及ぼす。町長は「川辺川ダム建設促進協議会」の会長という立場で川辺川ダム建設の早期着工を要望されている。町民の中には、「ダムありき」の姿勢に疑問の声がある。その声を基に質問する。

災害直後の昨年9月議会で小生の質問に「一名でも二名でも被害者を救えるのであればダムを造るべき」と答弁されている。以後一年間様々

な検証がなされている。ダムの効果に疑問の声もあるが認識に変わりはないか。

町長 認識は変わっていない。

藤川 川辺川に計画されている「流水型ダム」は一〇〇mを超える超大型ダムとなる。(国交省資料)流水型でも計画以上の降雨があれば満杯となり緊急放流は避けられず、命の危険を脅かす危険性がある(新潟大学大熊教授)との指摘がある。

町長 具体的なダムの構造、規模はまだ正式には発表されていない。何にしても限度がある。予定を超える雨量があれば対応できない。自分の身は自分で守るという行動をお願いするしかない。

藤川 流水型ダムは通常はゲートを作

って水を流すのだが、洪水時には土砂や流木でふさがれ濁流が続き環境への負荷が大きく清流日本一の川辺川は汚れて死の川になる。との指摘がある。

町長 ゲートを作るのである程度水が収まれば全面的に開放する。具体的な構造はまだ分かっていない。

藤川 流水型ダムであっても環境への影響が懸念される。法に則って環境アセスメントが必要と考えるが「環境アセス」は省略して建設を急げと要望されている。なぜか。

町長 川辺川ダム計画そのものが環境アセス法以前にできたものである。その法以前にも色々調査がされている。以前の調査を利用しながらできるだけ早く工事を着工してほしいと要望している。

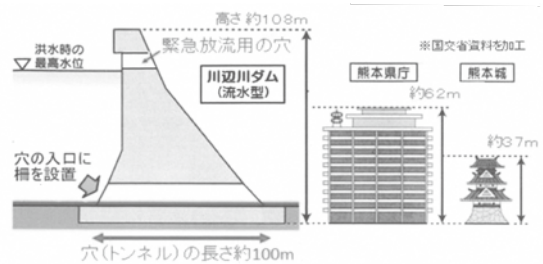
藤川 川辺川ダムがあれば今回の洪水は防げたという「ダムありきの議論」ではなく流域住民の意見を吸い上げ、検証委員会に行政ばかりでなくダム治水以外の専門家も入れて結論を出すべきだ。

空席になっている「副町長人事」の判断は

藤川 副町長が3ヶ月空席となっている。町長の判断・考え方を伺う。副町長の人件費は年間1200万円程度かかる。町民の関心も高く、置かないという選択肢もあるのでは。

町長 できるだけ早く置きたい。人選を熟慮中である。

※その他「非常災害時の情報伝達手段について『防災行政無線』の導入を問題提起した。
※本人の希望により原文のまま掲載



川辺川ダム(穴あきダム)のイメージ図

「自分自身が 輝くために！」



女性の社会進出を 考える座談会



世界の中での日本、日本の中でも地方と女性が活躍する環境が今、問われている。そこで今回、議会日より誌面企画として、錦町で行政に関わるポジションで活躍されている3名の方に話をいただきました。

― 錦町において女性が 活躍する環境 ―

石松 女性の社会進出は大事、家庭の理解もあって議員に出馬して、議会も男性社会だなアと感じている。その中で災害被災時あるいは防災に對しての女性目線の重要性もあり提言をしている。

福本 初の女性区長として大変だろうと言われるけれど、皆協力していただいで、やり易いですよ。役を引き受けてよかったと思っています。

池田 10年ぶり帰省して着任して、まず感じたのが、当時より男女共、活気がないなアと…。人が輝かないと町が輝かない、特に女性の活気が町の活性に繋がると思っている。

座談会

「男女共に活躍する バランスについて」

石松 仕事上の役割分担でいくと、現在、農家は結構進んでいると思う。

池田 都会では男女参画というに進んでいるけれど、印象としては、協力的体制ではなく、主張の仕合いという感じを受けていて、そういった意味では、こちらの家庭でのバランスはいいと思う。

福本 組織でいうと例えば現在女性農業委員が3名おられるけれど、なかなか自分から手をあげて来られる人がいない。人数枠が決まっています、男女比のバランスをどれくらいにするのか難しい。

石松 そうですね、女性が自らブレーキを踏んでいる所もあると思う。

池田 環境かなア。多分、意見を持っている人も言ったら周りの目が気になる土地柄かも。いい考えを持ってらっしゃるのにもったいないと地域

おこし事業でも感じた。

「どうすれば女性が活躍できる 環境になるでしょう」

池田 少人数でもいい、支えてくれる仲間づくりができれば可能になるのでは。一人二人でもいい、お役に立てばという気持ちで地域おこし協力隊員に応募し私は活動してきたので。

石松 自分の意見を言える環境地域づくりの必要性は感じている。

福本 区長という役を与えてもらって、楽しいと感じているし、言っている。忙しいけれど自分が楽しむ。

石松 家庭の理解も大事。
(一同、頷く)

「最後に一言お願いします」

池田 男性も今までと違った目線で見てもらうと環境も変わると思いますが、また、今日、お二人の活躍を見

て聞いて先陣を切る事の大切さを感じました。同世代の人達に、自分事で社会を見て捉えて欲しいと思います。

石松 男女共同参画というのは、一人一人が輝く社会づくりではないかと思っっています。もつと女性に一歩踏み出して欲しいですね。

福本 女性は自分達で環境を作って変えていかなきゃ。皆、自分なりに輝いて欲しい！
(敬称略)

お集まりいただいた3名の方の話振りから感じたのは、それぞれのポジションで楽しんでおられる(ご苦労もあつたようですが)。今後、益々のご活躍を期待しております。ありがとうございます。

インタビューアール 荒川

(誌面の都合上、お話を一部分割愛させていただいております。)



池田 加奈さん

元地域おこし協力隊
錦町木上平良



福本 王雅さん

第14区長、農業委員会委員
錦町一武中島



石松 まゆ子さん

錦町議会議員
錦町西黒辺田野

決算審査特別委員会報告書

令和2年度 各会計の決算を認定

9月8日、9日、10日、13日及び14日の5日間にわたって執行部に詳細な説明を求め、予算の執行が適正で効率的に行われたか、また住民福祉の向上等にとどのような成果を上げたかを主眼に慎重な審査を行い、その結果認定すべきものと決定した。なお、決算審査報告書の内容については次のとおり。

○総務課

地方分権が進展する中、多岐にわたる行政需要に対応するため、町独自研修への派遣が行われているので、今後職員の資質向上に期待する。

財政調整基金については、新型コロナウイルス禍及び令和2年7月4日の豪雨災害の中、基金取崩し480,417千円ながらも440,417千円を積立て1,390,000千円を維持できた。次年度は町民の生活が安定するよう住民サービスの向上に努められ、基金の運用を適正に検討されたい。本町が目標とする健全化判断比率においても将来負担比率90%以下の63.2%に達しており健全化が進んでいることは評価できる。今後は、復旧復興までは相当な時間がかかると思われるが、適正な財政運営に努められたい。

職員の労務管理、職員定数の適正管理に努め、特定の職員に過度な負担が生じないように配慮されたい。

路線バス及びくま川鉄道の運行に関しては、7月豪雨により鉄道が壊滅状態に被災し、高校生の通学に路線バスや民間のバス会社に参入頂き安心安全な高校生活が送れたのではないと思う。今後くま川鉄道では、令和3年11月より部分運行が開始予定であるが、全面復旧までは相当な時間を要するので、関係市町村とより一層の連携を図られたい。

消防団の活動については、7月豪雨災害により危険区域や浸水区域の避難誘導・救助等献身的な活動が見られた。今後も町民の安心安全な生活の確保のために努められたい。

○企画観光課

ふるさと納税額については、平成31年度実績10,387件171,619,083円に対し、令和2年度実績18,482件334,251,640円と前年比19.5%増となった。町の知名度向上や地域事業者の収入増に繋がったことは大いに評価する。

また、ふるさと納税は貴重な財源であり、令和3年度以降もフルーツの里錦町が全国版となり、移住定住の 프로모ーションと連携し人口増に繋がるよう期待する。

人吉海軍航空基地資料館を増設して令和3年3月にリニューアルオープンされた。錦町だけでなく人吉球磨の貴重な観光資源である施設なので、フェリスブックのほか、ツイッター及びインスタグラム等、幅広い年代層へ情報発信して資料館の認知度向上に努め、令和4年度で終了する補助金制度に頼

らない運営ができるよう期待する。

○住民福祉課

陳情、要望等も関係各課と連携を密にし、要望書の受付件数も91件で防犯灯やカーブミラーなど地域生活に密着するもので迅速に対応されている。

令和2年度から始まった錦町結婚新生活支援事業については広報誌やホームページに掲載され広がりを見せているので事業継続を強く望む。子育て支援事業として、ひとり親家庭等に医療費扶助1,312,286円を助成、子育て世帯への臨時給付金として児童1人当り10,000円で16,290,000円を給付しているが、新型コロナウイルス感染症拡大で支援を必要とする親にとっては安心して子育てができ、評価できる。

令和2年7月豪雨災害での災害廃棄物処理事業では、リサイクル家電の処分費・公費解体費・仮置場管理委託業務費に70,747,937円の支出である。災害廃棄物については、早期撤去を望む。

○健康保険課

年間医療費が前年度比、約13,089千円増で過年度まで大幅増加傾向であったのが、やや落ち着き高止まり感はある。国民健康保険財政調整基金の現在高が262,462千円であり、今後、被保険者の年齢層を鑑みた高齢者の増加は予測され、国保財政は依然として厳しい状況と憂慮される。

新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業及び接種事業において、本町が今まで取り組んできた、中学3年生対象の健康診断は、若年層の基礎疾患認識に功を奏し、新型コロナウイルス感染症の重症化を未然に防ぐ判断に大いに役立っていると思われるので評価したい。

○ 税務課

新型コロナウイルス禍及び7月豪雨災害、災害減免の措置がある中で、税の公平性を保つため、納税交渉、滞納処分を積極的にを行い、収納率向上したことは評価する。

不納欠損処分については、税負担の公平性と歳入確保の観点から慎重かつ厳正に対処されたい。

貴重な自主財源の確保のため、今後も新たな課税客体を把握し、町税の公正・公平な賦課徴収を行い、更なる収納率向上のため、コンビニ収納・口座振替の推進に努められたい。

○ 出納室

基金管理については、確実有利な基金の管理・運用を行っており、超低金利の中、今後さらに情報収集に努められ、有利な基金運用を進められたい。

○ 教育振興課

令和2年度においては、新型コロナウイルス、7月豪雨による影響が学校教育、社会教育共に災い、特に小中学校の授業日数確保に苦労があったと思われる。中でも、中学校の修学旅行は中止となり学校現場の先生、

保護者、生徒のことを思えば大変気の毒に思う。今後は、PCR検査・ワクチン接種を実施し、安心安全な行事遂行を期待する。

ICT環境整備については、GIGAスクール構想に伴い、校内LAN整備や授業支援、支援書ソフト活用等、充実と強化を図られたことを評価したい。

教育振興については、英語検定受検料の補助と教育支援員の配置も行われ、児童生徒への学習支援体制も確立されているので、今後も充実した支援体制の継続性を望む。また、心の教室相談員活用事業については、相談件数が増加傾向にある。今後も、解消や一人一人がゆとりある環境の提供をできるように事業を進められることを期待する。

社会教育については、新型コロナウイルス感染症と7月豪雨災害の影響が大きく、各種事業が中止となり所期の目的である「地域住民の親睦と融和」が実行できず残念な結果である。このことは、今後の事業計画に難しい判断を余儀なくされると思われる。

○ 地域整備課

道路改良事業については、用地取得の問題はあるが年度後期発注が多く年々繰越事業が多くなっている。7月豪雨災害にて道路・河川と甚大な被災により課題が山積しており、職員不足もさることながら、職員の時間外勤務が増加しており職員の健康管理も考慮しながら、工事発注の遅れにならないように努力されたい。

町水道事業及び下水道事業について

は、簡易水道地区の責任者と話し合いの場を設け、町水道加入に向け努力すべきである。併せて、下水道事業も未加入世帯加入が最大の課題であるので、加入専門の職員を配置して下水道区域の全戸加入を目標に掲げ、水道事業と同様に一般財源からの繰入れを避けるよう努力すべきである。

○ 農林振興課

農業の担い手育成確保対策として、農業次世代人材投資事業補助金と錦町農業担い手支援給付金を24経営体に交付されているが、農業後継者育成に成果が表れており、定着に向け更なる充実を望む。

農業用ドローンオペレーター養成事業を創設し3経営体に免許取得の支援により、農業の省力化に向けてこれらの担い手不足の解消の1つとしてスマート農業への移行を期待する。

新型コロナウイルス感染症対策として、売り上げの減少等を受けた農林業者に国の事業、持続化給付金40経営体、雇用助成金25経営体等の支援、また、令和2年7月豪雨災害対策として強い農業担い手づくり総合支援事業（被災農業者支援型）を57経営体に支援、これらの事業は本町農業振興に大きく寄与したと評価できる。

○ 農業委員会

農地の移動転用許可関係において、大きな変化は見られない。農業経営基盤強化促進関係では、農地中間管理機構の扱う農地は前年度比20.7haと大きく伸びていることが見られる。耕作放棄地関係では、不作地が4.3

haあり、前年比+3.0haと大きく増加していることが伺える。耕作者の高齢化、農業担い手が減少しているのが現実である。大規模面積農業経営者も必要であるが、小規模面積でも農業経営ができ、反収が得られる小面積の土地利用が必要ではないか。また、現在農業委員10名、農地利用最適化推進委員6名である。その内、女性委員が3名であるが、今後においては多くの女性委員の登用を願う。

○ まとめ

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症及び7月豪雨災害による関連事業もあって、一般会計・特別会計の歳入歳出予算額も、かつてない14,401,662,618円という大規模な予算額で、前年が9,291,481,000円であり、5,110,141,618円の増で、前年比が55%増である。

特に、災害関連事業は国・県からの交付金事業が主となるため、単年で事業が完了せず、殆どが繰越明許費となることはやむを得ないと思われるが、次年度において当該年度事業分と両立した事業展開となるので、執行に当たっては遺漏がないよう努力されることを強く望む。その他の事業の予算執行については、適正に執行されていると認める。

最後に、今回の決算審査において各議員からの提言については、後年度の予算編成や行政執行に活かされるよう要望する。また、効率的な行財政の運営に尚一層努められたい。

議会のうごき

7月

- 1日 ・ 全員協議会
- 6日 ・ 川辺川ダム建設促進協議会定期総会
- ・ 三期成会合同定期総会
- 8日 ・ 例月出納検査
- ・ 定例郡議長会議
- 9日 ・ 広報特別委員会
- 14日 ・ 決算審査（～28日）
- 15日 ・ 広報特別委員会
- 20日 ・ 常任委員長・議会運営委員長研修会
- 21日 ・ 広報特別委員会
- 27日 ・ 熊本県町村監査委員協議会臨時総会
- ・ 熊本県町村監査委員研修会

8月

- 2日 ・ 令和3年第2回定例会再開
- ・ 全員協議会
- 10日 ・ 例月出納検査
- 12日 ・ 備品監査（西小）
- ・ 定例郡議長会議
- 24日 ・ 人吉下球磨消防組合議会臨時会
- 25日 ・ 町村議会正副議長研修会
- 26日 ・ 第15回錦町議会活性化特別委員会作業部会
- 27日 ・ 人吉球磨広域行政組合議会定例会
- 31日 ・ 議会運営委員会
- ・ 全員協議会
- ・ 第12回錦町議会活性化特別委員会

9月

- 3日 ・ 定例郡議長会議
- 7日 ・ 令和3年第3回定例会（～16日）
- 10日 ・ 金婚夫婦表彰式
- 21日 ・ 例月出納検査（～22日）
- 24日 ・ 広報特別委員会
- ・ 第16回錦町議会活性化特別委員会作業部会
- ・ 町村会との意見交換会（議長会）



正副議長研修オンライン

8月26日、熊本県町村議会議長会主催、正副議長研修が初めてオンライン形式で開催された。講師は元通産省企画官で現在産業評論家の進藤勇治氏、演題は「SDGsの国際的な取り組みの現状と展望、日本の役割」90分。



内容は①SDGsについて②日本におけるSDGsの経緯③SDGsは日本が国際社会において大いに力を発揮できる分野が主なものであった。その中でSDGsと地方自治体との関係性で北海道下川町のSDGs取り組み例が紹介された。具体的には、下川町は、持続可能な森林経営を中心に、適正な木材、木製品の生産と供給、森林の健康や教育への活用、未利用森林資源と再エネ活用、再エネ熱供給システムを核としたコンパクトタウン等を推進する事例が紹介された。

傍聴席から一言

多武 義治さん（球磨村議会議長）



錦町議会の一般質問傍聴は2回目になります。

今回は、5人の議員の方が行政全般にわたり熱心に質問されていましたが、傍聴席は少しさみしく感じました。

さて、本日の質問を聞き感じたことは、執行部（役場側）が議員の事前通告（通知）した質問内容に対する確に答弁され、この日に至るまでの大変な努力を感じました。

そこで思ったことが、一般質問の議論が少しは「筋書きのないドラマ」になってもいいのではないかとということです。そのことで、町民の皆様が少しでも議場に足を運び、ライブで議員と執行部のやりとりを聞く機会となれば、さらなる議会活性化にも繋がるのではないのでしょうか。

【広報特別委員会】

委員長 荒川 孝一 委員 池田 秀晴
副委員長 竹田農利人 石松まゆ子

議長 金山 民幸
吉田 真二